

# 十勝トレセンU-12

## 第29回船越さくらカップ報告書



### 大会結果

#### ☆予選リーグ

第1試合	とちち帯広FC	7-0	清水プエルトFC (静岡県)
第2試合	とちち帯広FC	4-0	フットワークFC (神奈川県)

#### ☆決勝トーナメント

準々決勝	とちち帯広FC	2-0	SP FUTE (千葉県)
準決勝	とちち帯広FC	0-2	藤崎SC (千葉県)
3位決定戦	とちち帯広FC	1-1 (PK 1-3)	原FC (神奈川県)

参加24チーム中 第4位

2017. 4. 1~2

日本平IAIスタジアム他

報告者 十勝地区サッカー協会 技術委員 竹本 良平  
担当コーチ代表 泉井 康宏

## はじめに

静岡遠征に出発する直前のトレーニングを白樺学園のご厚意でグラウンドを使用させていただき、久しぶりの屋外でのトレーニングをすることができた。

「フィニッシュ」をテーマとしてトレーニングを行い、GKはポジショニングとシュートストップのトレーニングを行った。その中でFPは①強いアクションでボールを引き出すこと、②攻撃の優先順位を意識して、シュートを撃つチャンスを逃さないこと の2つを課題にした。

またGKは良い準備（ポジショニング、姿勢）から、出るのか構えるのかを判断し、ゴールマウスを守ることを課題とした。

11人制のゲームを行った際にはどうしても、ボールサイドに人が集中してしまう現象が見られたので、味方、相手選手を良く観て良いポジションをとり続けることを課題とした。

3月31日に十勝を出発して静岡に到着したが、今年は異常気象でいつもは満開のはずの桜も開花すらしておらず、気温も低かった。さらに雨が降っていたため、前日の練習会場の船越小学校グラウンドが使用できなかった。そこで、現地の船越ヴァーモスのスタッフをお願いして、エスパルスドリームプラザ屋上にあるフットサルコートでトレーニングをさせてもらうこととなった。雨が降る中だったが、直前練習で取り組んだフィニッシュをテーマにして1時間30分ほど、トレーニングを行うことができた。選手も動きが思いのほか良く、翌日から始まる大会に向けてスタッフ一同、大いに期待できると感じた。

大会1日目の日本平行きのかかったゲームで千葉の強豪SP FUTEに競り勝つことができ、今年も十勝の選手全員がIAIスタジアムのピッチに立つことができた。選手たちは試合を重ねるごとに個人として、チームとしてレベルを上げ、関東、東海の強豪チームから大いに刺激を受けることができた。その中でこれまで取り組んできた成果とこれから強化していかなければならない課題がはっきりとした。

簡単ではあるが、2日間の選手たちの奮闘ぶりや成果と課題をまとめたので、参考にさせていただいたら幸いである。

4月1日（土）

☆予選リーグ第1試合 とちぎ帯広FC 7-0 清水プエルとFC（静岡県）

3チームのリーグ戦でとちぎ帯広FCは試合の順番が後だったので、最初に地元のプエルトと神奈川のフットワークのゲームをスカウティングできた。試合結果は5-1でフットワーク（神奈川県）が勝利したが、どちらのチームにも得点をとることができるエースがいたので、要注意である。

初戦はプエルトでフットワークには敗戦しているものの好チームである。試合開始早々の5分、後方でのポゼッションから右サイドに展開し、6が折り返して、7がゴールを決める。早い段階に得点を取ることができたので、精神的にも余裕をもって試合をすすめることがで

きた。10分には相手ゴールキックを7がカットし、そのセカンドボールを15が拾って、シュートを決めて、2点目。15分にも11のパスを13が受けてシュートを決めて前半は3-0で折り返す。

ハーフタイムには担当コーチから

- ・ピッチを広く使うこと
- ・クロスを良く観て高い精度のボールを入れること

以上の指示が出された。

後半に入ってもとかちの優位は変わらず、6分に17がドリブルで持ち込んでゴールを決める。さらに10分には17からパスを受けた10がシュートを決め、その直後にも10がミドルレンジからシュート。これが決まって6-0。さらに終了間際にはコーナーキックからのこぼれ球を17がミドルシュートを決め、7-0で勝利する。

#### ☆予選リーグ第2試合 とちぎ帯広FC 4-0 フットワークFC (神奈川県)

ディフェンスライン、中盤、フォワードにそれぞれ大型の能力の高い選手を配置したチームで1試合目のプエルト戦では5-1で快勝した力強いチームである。とちぎ帯広も1勝したので、決勝トーナメント進出のかかった大事な1戦である。

相手チームはとちぎ帯広のオフェンス力を警戒し、前線の大型の選手を最終ラインに下げたので、終始優位にゲームを進めることができた。

前半3分、8がミドルシュートを放ち、そのこぼれ球を7がつめて、幸先のいい先制点。前半はその後、押し気味に進めるが、膠着して前半は1-0で折り返す。

ハーフタイムには

- ・サポートの質 (タイミング良く、みんなで支える意識をもつこと)
- ・攻撃を急ぎすぎないこと

以上の指示が出された。

後半に入っても、とかちの優位は変わらず、2分にはゴール前のこぼれ球を10が拾い、ミドルシュートを決め2点目。6分には12からパスを受けた10がミドルシュートを放ち、ゴールネットを揺らす。13分には16がターンして前を向き、18ヘスルーパスを出し、GKを落ち着いてかわして4点目。

警戒した相手だったが、4-0で快勝し、決勝トーナメント進出を決める。

#### ☆決勝トーナメント1回戦 とちぎ帯広FC 2-0 SP FUTE (千葉県)

日本平進出がかかった大一番。相手は関東(千葉)の強豪SP FUTE(フッチ)。SPはエスパルスの略で、清水エスパルスと提携のあるチームである。予選の様子を見ても、ボールを大事にしながらポジションをして、ゴールに迫っていくチームである。

とちぎ帯広もDFラインを高く保ち、高い位置からプレスをかける守備で、相手も同様に

高いDFラインを保ちながら、前線から積極的にプレッシングをかけてくるチームである。そこで相手チームは、このゲームに限っては、DFラインの背後にロングボールを配給する戦術であった。グラウンドコンディションはあまりよくなかったものの、相手選手はしっかりとロングボールが出せるのに対し、冬季のフットサルのためか、ショートパスが多いとかちは中盤でボールを失う場面が多く見られた。それでも最後の危ない場面は粘り強く守備をして、ゴールを割らせず、前半は押され気味だったものの、0-0で折り返す。

ハーフタイムには

- 危ない時はDFラインで不用意につながないで、クリアをすることも必要である。
- 相手のDFラインが高いのでスペースはその背後にある。その背後のスペースを狙う。

以上の指示が出された。

開始早々の5分、中盤からのロングボールの処理に手間取ったDFのボールを10が奪い、そのままゴール向かい、うれしい先制点を決める。

その後は一進一退の内容であったが、終了間際に10からのパスを17がフリーで受けて、落ち着いてゴール左隅に流し込み、追加点。トータル2-0で勝ちきって、日本平進出を決めた。

4月2日（日）

☆準決勝 とちぎ帯広FC 0-2 藤崎SC（千葉県）

準決勝は千葉の強豪、藤崎SC。今大会優勝経験もある好チームである。選手数が11人ぴったりで、ベンチにリザーブのいないチームであったが、個々の選手が戦える力強いチームであった。

前半は相手の球際の強さに圧倒される。失点こそしなかったものの、終始押され気味でゲームが進む。何度か危ない場面もあったが、GK1が好セーブをするなどして、前半は0-0で折り返す。

ハーフタイムには

- 球際は命がけでいくこと
- 守備になったときのサイドハーフのポジションをカバーリングにも行けるように修正すること

以上の指示が出された。

後半に入っても相手の優位は変わらず、後半2分、相手の強いプレッシャーに負けて、バックパスをしたところを奪われ、シュートを決められる。今大会初失点となる。

なんとか食い下がりたいとちぎだったが、すぐの5分、右サイドからの高いクロスボールを頭で合わされ、2点目の失点。

とちぎも何度かチャンスを作ったものの、決定機には至らず、試合終了。今大会初の敗戦となる。

☆3位決定戦 とかち帯広 FC 1－1 原 FC（神奈川県）

3位決定戦は日本平である。

相手は、これまで何度も対戦したことのある神奈川（横浜）の強豪原 FC である。もちろん今大会の優勝経験もあり、とかちも何度か苦杯をなめたチームである。

前半はどちらも日本平のピッチを生き生き動き回る、好ゲームとなる。12分に相手コーナーキックのこぼれ球をうまくクリアできなかったところ拾われ、押し込まれて失点。とかちも何度もチャンスを作り、一進一退のゲームとなり、14分にはDF2がオーバーラップをして、クロスボールを入れ、そのこぼれ球を2が拾い、角度のないところからミドルシュートを放つ。それがゴールに吸い込まれ、同点。前半は1－1で折り返す。

ハーフタイムには

- ・ピッチが広いからそれを有効に使うこと。
- ・球際で負けない事

以上の指示が出される。

後半に入っても一進一退の状況は続き、とかちも相手チームもそれぞれチャンスは作るが決定機には至らず、そのまま終了し、PK戦に入る。

GK1が2本のシュートを止めたものの、トータル1－3で負けて4位（敢闘賞）となる。



## 成果と課題

### 成果（ディフェンス）

守備は大会5試合を通じて3失点は東海・関東の強豪を相手にしていると考えれば、十分評価できる。守るもの（ゴール）を意識して、正しいポジションを取り続けながら、粘り強く守備をして、シュートを撃たせない場面が随所に見られた。守備のステップワークも良く、相手のスピードのある選手に対しても、しっかりと対応できていた。

また狙いをもった守備を意識することで、後方からのコーチングが重要になるわけだが、特に GK から積極的にコーチングを行っていた。その結果、チームとして守備をすることができた場面がいくつか見られた。

### 成果（オフェンス）

攻撃は大会5試合を通じて14得点で1試合平均3点をとれているので、一定の評価ができる。大会序盤はなかなか目指すべき最優先順位（ゴール）が意識できていなかった場面もあったが、ミドルシュートが決まった場面、ミドルシュートからリバウンドを決めた場面がいくつか見られた。

安定したポジションからの崩しは相手のプレッシャーの弱いときは意識できていた。後方でサイドチェンジをして、逆サイドからクロスボールを入れて、得点を奪った場面も見られた。

### 課題（ディフェンス）

守備の課題はオフザボールのポジショニングがまだまだ曖昧なところである。1stDF の位置をみて、2ndDF がカバーのできるポジションをとり、3人目、4人目がバランスをとるというチームでの守備がもう一つ徹底できていなかったように感じた。

また、球際の強さは試合によっては相手に圧倒されてしまった場面があった。やはり「球際は命がけ」でいかなければならない。全国レベル、さらには世界基準を意識すると、今後も継続して取り組まなければならない課題である。

### 課題（オフェンス）

今回の大会を振り返ったときに、個の能力でとった得点が多かったように思う。チームでみんなが関わり合いながら奪った得点は0ではないが、少なかった。パス・コントロールの質、動きだしのタイミング、常に選択肢をもったプレーなど、質を上げなければならぬと感じた。もちろんストライカー的な個の育成も大事だが、それぞれの個が「サッカーをする」ことを意識した個人戦術を身につけることが今後の課題である。

## おわりに

2016年度からスタートしたトレセンデーの成果ははっきりと表れていた。今後も継続して取り組んでいきたい事業である。

さらに、年度末から年度始めにかけての時期に遠征を計画していたチームがあったにも関わらず、快く選手を送り出していただいた、各チームの指導者に感謝したい。

そして、今年も関東、東海の強豪チームに遜色なく戦えたのは「チーム十勝」のレベルが着実に上がっているからである。各チームのトレーニングやゲームの質が年々向上しているおかげで、好成績を残すことができている。労を惜しまず、自分の時間を犠牲にしてまで日々サッカー指導に当たっている十勝の指導者の皆様に感謝申し上げたい。

今回の遠征に際して、十勝地区サッカー協会をはじめ、十勝少年サッカー連盟、各単位少年団関係者の皆様方、そして保護者の皆様方には多大なご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます、結びとしたい。

## 参加選手 20 名へのコメント

- ① 守備にかける積極的なコーチングが素晴らしかった。また安定したシュートストップも良かった。今後はキックの質を高めよう。
- ② 積極的な攻撃参加が光り、得点も決めた。力強いプレーも目立った。今後は味方と連携して守備や攻撃をすることを意識しよう。
- ③ 最終ラインとして、安定した守備を見せた。浮き球も長身を生かして上手く処理していた。今後は味方選手にもっとコーチングをしてチームで守備できるようにしよう。
- ④ スピードのある相手 FW 選手に対して、粘り強く守備することができた。今後は相手のプレッシャーが強い中でも落ち着いてポジションできるようにしよう。
- ⑤ 中盤でみんなが攻め急いでいるときも、少しボールキープをして時間を作ることができた。今後は自分でもゴールを狙えるアグレッシブさを身につけよう。
- ⑥ 味方の選手に対して、的確にサポートをしていた。正確なパス、コントロールも光った。今後は優先順位を意識し、常に選択肢のあるプレーを心がけよう。
- ⑦ 前線からひたむきにボールを追う姿が素晴らしい。強いフィジカルで相手選手に負けていなかった。今後は味方選手ともっと関わって崩すイメージをもとう。
- ⑧ 豊富な運動量で攻守にわたって、活躍した。特に守備で危ないところを察知して、チームのピンチを救った。今後はオフェンス面でもっと攻撃参加できるようにしよう。
- ⑨ ボールコントロールのテクニック、パスセンスに非凡なものを感じた。今後はフィジカル面で相手選手に勝てるようにしよう。
- ⑩ 瞬間的な突破力、左足から放たれるシュートでゴールを量産した。今後はもっと味方と関わり合いながら、選択肢をもってプレーしよう。
- ⑪ 正確なパス、コントロールが光った。その正確なプレーから何度も決定機を演出した。今後は突破、シュートが狙える選手になろう。
- ⑫ 安定した守備で、幾度となくピンチを救った。正しいポジションから積極的にインターセプトを狙っていた。今後はもっと攻撃参加できるようにしよう。
- ⑬ 高い身長、リーチを生かして、FW としても DF としても活躍した。今後は常にプレーに関わり続けることを意識しよう。
- ⑭ DF で出場する機会が多かったが、積極的に攻撃参加して、好機を演出した。今後はキックを含めて一つ一つのプレーの精度を高めよう。

- ⑮ 相手守備陣を崩す攻撃センスが光った。攻撃の起点となりたくさんチャンスを作った。今後はフィジカル面を含めて、より力強くプレーできるようにしよう。
- ⑯ ドリブルテクニックに優れ、そのテクニックを披露した。今後はもっと状況を観て選択肢をもちながらプレーすることを心がけよう。
- ⑰ 日本平行を決める試合では、追加点のほしい時に、落ち着いてゴールを決めてくれた。今後は一つ一つのプレーをもっと丁寧にならう。
- ⑱ 積極的な突破を試みて、何度も相手ゴールに迫った。前線からのチェイシングも光った。今後はもっと広い視野をもって、プレーの選択肢をもとう。
- ⑲ 中盤でねば強く守備をし、DF ラインを助けてくれた。攻撃センスも光って、幾度となくチャンスを演出した。今後は味方、相手をもっと観てポジショニングしよう。
- ⑳ 長身を生かして、ゴールマウスを守った。DF ラインにもよく声かけをしていた。今後はシュートストップ技術をもっと上げて、テクニックも身につけ、ビルドアップに参加しよう。

